

25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
一 億 歳 児 の 我 に 鶴 の 眼 輝 か ず	十 月 の 井 戸 く ろ ぐ ろ と 海 豚 湧 く	つ ぎ つ ぎ と 鹿 生 る 夢 の 花 筏	白 い ビ ル 椅 子 見 せ て く れ 自 爆 の た め の	花 菖 蒲 天 暗 け れ ば 臥 し 休 む	謙 遜 （ へ り く だ り ） の ビ ル か ら 赤 い 水 着 を 落 と す	工 具 運 ぶ 者 に エ ホ バ の 太 陽 二 つ	頭 病 め ば 荒 地 に 蛭 と 金 囊 （ か ね ぶ く ろ ）	ダ リ ア 園 火 傷 以 外 に 得 る も の な し	狐 の 腸 地 に 冷 え 百 の 蛾 の 羽 搏 き	三 月 の 銀 震 え よ 獣 の 舌 煮 る あ い だ	沼 に は 少 年 朝 の 壺 に は 芋 虫 溺 れ	火 矢 を 放 ち 八 百 歳 の 猫 の 如 し	石 柱 に 接 吻 す れ ば 雨 と 蛸	軍 艦 よ う こ そ 暗 黒 山 河 に 猿 が 生 ま れ	一 瞬 間 （ ま た た く ま ） の 鶴 の ぜ つ め い 青 い 紅 葉	黙 る 詩 人 の 虹 の 朝 餉 に 乳 が 湧 く	ゑ ？ と 言 い 地 下 の 鴨 肉 腐 る 誕 生 日	ビ ル に 角 笛 燃 え み な し ご の 悪 さ よ な ら	重 い 夜 の 霧 猫 が 時 計 の な か で 飢 え	日 本 海 に 虻 蹴 り 落 と し 悲 し い 事 務	花 つ ば き 流 民 か 磐 を 断 つ も の は	老 い た 海 が 不 滅 の Q を も つ 夜 明 け	誰 の 忌 か 天 上 の 鹿 雨 を も と め	天 上 へ 繭 の つ ら な り 濡 れ な が ら

50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26
 床柱壁窓青い木餓えた鷗
 鮫の頭を載せる鞆（ブランコ）知人の忌日
 霧の海に顔燃え時代そらおぼえ
 銃持たぬ老人に冬の楽隊果実のごとし
 悪書読む夜の金槌を父に渡す
 森を泳ぐコピー機火を噴き猿をはじき
 重い櫓黒くかがやく火葬の前日
 髭を剃るとき桃と幾何学かなしい村
 滅びよモネ少年時代の蛇口とともに
 脳内の金工の冬すぐに終わる
 燃える鶴二本の槍に貫かれ
 丘を呪う湖心に黒い鹿が震え
 車沈みわれらの内部の玉葱臭う
 凍った鳥握り両眼に糸の世界
 六階隅に鼠倒れ鼠を翠（みどり）の箱へ
 顔なし家畜ボタンを押せばなんでもできる
 亀の瞳に曲がる太陽鳴り止む鐘
 斧の夜は鳥飼う者のみ腿撲られ
 串刺しの驢馬の左右に朝の花火
 ハツカー群れて酔う砂浜の黒い扉
 車輪から蝶とびたてば牛糞れ
 青い蝶に機械（めか）打つ前の拳を見られ
 俯く青年へ赤い雪降る鶴の保護区
 地の蝸牛割れ赤い蔵から男ら去る
 曼陀羅の手前うつせみ時間を抱く

- 75 銃拭く男に盛夏の巨石やがて瑠璃
- 74 人曲（デカメロン）読み水底に針落ちる
- 73 菊に蜘蛛 二階の画家は火を描く
- 72 土地なき我に蔓が尊く剥がれた鏡
- 71 すれ違う卑語蝶となる白い街
- 70 牛酪（バター）盗む少年に詩は翡翠のごとく
- 69 青いうみうし捕らえ豪雨の磯となり
- 68 月光の触手ダビデの鼻削る
- 67 迷路閉じても猿の自慰千年目
- 66 鐵の蓮ひらく真下の摩天楼
- 65 牛乳商人燭光をあび冷えゆく薔薇
- 64 餓えた猟犬に築城の夢終わり無し
- 63 焼経（やけぎょう）を双子眺める盲（めし）いても
- 62 蟹の葬失禁するほどに桜
- 61 瑪瑙の上の蛇に電ふる無臭の避暑地
- 60 チェロ裂けば蛞蝓がでて霧の庁舎
- 59 蠅の奴隸のわれら百回（ももたび）欺かれ
- 58 撞木鮫干され時計屋出口なし
- 57 羅漢の罅（ひび）へ桃握るときその雫
- 56 紺の地球儀書齋に少女の眼球鈴生り
- 55 われの背後で金魚焼かれる樹海の演奏
- 54 菊枯れて鏡に白馬と菊と鏡
- 53 牡鹿に触れわが眉も濡れ雨の銀山
- 52 横断歩道（ゼブラゾーン）の真下水死のドラえもん
- 51 ねじれた蛾の群れ 製氷のため肩組めば

100 ああ膨張の木に油塗る白虎の再起
 99 雪原では瓶鳴るように時間生まれ
 98 B - 29埋まる荒野に桶と詩人を蹴る
 97 静座して母に水母のちからが見えた
 96 霧雨の四方(よも)の熊より糞香り
 95 蓮の白い呪いは釘を思えばよい
 94 船にモルヒネ耳を失う刺繍少年
 93 盾持つ少女ら毛虫は鏡の上に震え
 92 不発弾空へ戻せば時代ずれ
 91 薙刀の前で狂えば亀に黒い息
 90 楽器は灰に少女は産まれるえなめるに
 89 凍死の山寂然(しん)と桃売りババア有難う
 88 海のジャズ聴く六人は鰐を焼く
 87 薬草を蛇泳ぎきる火傷しつつ
 86 花ほどに狼餓えて橋震える
 85 鶴を捌く大鎧より御声して
 84 蕃椒(とうがらし)銜え夜四枚の鏡を売る
 83 人形(ドール)の眼を焼け蟹の基準を理解して
 82 鐵の蠶螂にぎる乙女は可厭(いや)だ、可厭(いや)だ
 81 饒舌(しゃべ)るなよ鸚鵡から詩が逃げてゆく
 80 冷えた破鐘(われがね)に寝る玉虫に手術(オペ)の夢
 79 石の部屋チーズまみれの猿にも歴史
 78 凍った檸檬とタイヤ片づけ世界無し
 77 漁夫の手に眼薬溜まり虹立つ古城
 76 ある雪原に墓のまぼろし乳房はない